

第8回川口市美術館建設基本構想・基本計画審議会 会議録

日時 令和元年10月23日(水) 15時30分～17時00分

場所 中央図書館 7階 会議室

出席者 (委員) 利根会長 増田副会長 山下委員 布施委員 森委員
岩崎委員 稲川委員 原田委員 丸山委員 飯田委員
吉岡委員
岡村アドバイザー
(事務局) 間中生涯学習部長 江原文化推進室長 青木館長
立花室長補佐 菅井主査 秋田主任
尾崎主任
(運営支援) 小石川スタジオ一級建築士事務所／永井代表

議事録

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

議題(1) 前回資料の修正箇所について

事務局より資料に基づき説明、了承を得る。

議題(2) 基本構想実現のために必要な建物の仕様、規模

議題(3) 建設費低減に向けた建設案

【質疑応答】

(会長) 議題(2)(3)について事務局より説明があったが、議題(2)の基本構想実現のために必要な建物の仕様、規模について、何かご意見はあるか。

(委員) 既存施設に関する参考資料について、13番の富山ガラス美術館に、去年と2週間前に行ってきた、いろいろ見て測ったりしてきたが、延床面積における展示室の割合が60%となっている。ご承知のとおり、同館は図書館との複合施設で、大きな吹き抜けや共用スペースもあり、印象としては、もっと小さな数字になるかと思う。

何か根拠があって60%と表していると思うが、施設の特異性も考慮し、どこを分母にするのかで違ってくると思う。

続いて、資料1ページについてだが、川口らしさ、街並、エコ、ドラマチック、質の高いデザインなど、よく整理されている。この1年

間、参考資料の18館のうち14館は見てきたが、トイレや廊下など、隅々までデザインされていることが大切だと感じている。

「エコで災害に強い建物」のCO₂排出削減については、川口市の排出量はざっと200万トンくらいかなと思うが、新たな施設を作ってCO₂が増えては困るので、環境に優しいという発想が良いと思う。

2ページ目の右下、研究部門のガラス張りのワンルームスペースとあるが、大体、どこの美術館もバックヤードなんて全然わからない。研究員がガラス張りで仕事をしているのはショッキングな光景で、これは結構なアイデアだと思う。全国あるいは世界でも珍しい試みではないかなと思う。

3ページ目には展示公開部門、展示方法のイメージがあるが、コレクションの時代背景、どういう美術作品と出会い、スポンサーとなってどういう風に作ったか、そういうことを一つひとつ調べて論文にまとめるということは、大変有意義なことだと思う。この川口の美術館から博士論文が5年に1本ぐらい出るぐらいの意気込みでやっていただけるとよいかという風にも感じた。

おとといだったか、ニューヨークの近代美術館MOMAがリオープンし、一番の目玉が、ダンスとか音楽とかができるような多目的スペースを作ったという記事がニューヨークタイムズに書いてあった。5ページ左側の多目的ホールのコンセプトとか構成ということについては、時代の最先端をいく提案として期待したい。

6ページのものづくりエリアについても、非常に良い提案だと感じた。ただ、実際にマッチングをどういう方がやるのかというのが今後の検討課題である。そういうことに優れた力を持つスタッフを配置し、上手にやらないと、描いた餅になってしまう。今後の課題として検討すべきと考える。

(委員) 「ドラマチックな建物」の部分、施設の中に「川口の部屋」、面積はわからないが、そういうものがあることを考えると、ドラマチックかつ品格のある建物というか、あまりストーリー性がある、現代的すぎるのもどうかという思いがある。

また、2ページ目の収集保存部門の構成のところに、「修復・保存を行う機能を実現します」とある。そういうものを扱う人や場所を考えていると思うが、修復に関して言えば、ガラス張りの部屋でやるようなものでもないと思うので、その辺りはどう考えているのか。

(事務局) まず、ドラマチックかつ品格のあるものをということだが、ご指摘のとおりであり、川口市のアイデンティティとなるような品格のあるものを今後検討していきたい。

2点目の収集保存機能については、保存、収蔵に必要なしっかり

した機能を備え、修復についても、必要・不必要という判断を長期的にできる人員を配置し、修復が必要な場合には専門の修復師に依頼できるような部門を作りたいと考えている。

(委員) 内部で修復を行うのではなく、外部発注できる人員が必要ということか。

(事務局) 修復の知識がある人員を配置し、外部発注できる体制を作りたいということである。

(委員) 多目的ホールのところだが、階高7m程度として、始めは5mぐらいの展示室の高さでやって、多目的の部分は7mないしそれ以上でみているという解釈でよいか。

(事務局) その通りである。基本的には、様々な用途で使える多目的ホールの天井高は、有効で7mぐらい必要になると考えている。

(委員) 容積の問題になるかと思う。高さと面積で。パフォーマンスのようなものを入れる場合、吊りものが上げられるかということも。

(事務局) 事務局として想定したのは真っ平らなもので、例えば、演劇などを行う場合、客席をせり上がらせることは不可能なので、舞台を少し上げられるようにするとか、照明を上手く当てたり、プロジェクションマッピングに対応するためにはどのくらい必要なのか、そうしたことを勘案し、概ね7mは必要であろうと考えたものである。

(委員) 余談だが、プロジェクションマッピングの場合、左右幅と高さがほぼ同じくらいだと迫力を得られる。そうすると、7mでは少し足りないかも知れない。

(委員) 少し話は違うが、埼玉県立近代美術館、あそこで絵画を展示する場合、光線の当たり具合がよいところと悪いところがある。部屋の分け方によって、光線がまるで違ってくる。多目的に利用できる部屋を検討する場合には、速やかに移動できる壁とか、天井の中の配線関係とか、設備的なものも併せて考える必要があると思う。

(委員) 4ページの展示室のレイアウトについて一言。A・B・C、Cのバリエーションという各パターンが図示されている。建設地も空間のプロポーションもわからない中では、議論してもなかなか煮詰まらないということもよくわかるが、各パターンの一般的な例示を出していただくと、イメージが共有できると思う。

例えば、Cの一番右側は、真ん中に共有スペースがあり、周りに展示室があるという、パリのオルセーのようなパターン。駅を改造した美術館で、真ん中からのぞくと、誰がどこにいるのか、どんな部屋があるのか一目でわかり、すごくよい空間だと思う。逆に、展示室がシーケンスに並ぶパターンは、規模は大きいですが、マドリード

のプラド美術館などがそうで、最近はこの形美術館は少ないが、延々部屋がつながっていくという、ちょっとイライラする構成になっている。メリット、デメリット、それぞれ好き嫌いもあると思うが、各パターンを例示されると、皆さんの共有課題が具体的に思ってくると思う。Cの右下のパターンは、内と外が逆だが、金沢21世紀美術館の形。わりあい自由な空間を設定しているが、方向感覚がつかみづらく、企画展と常設展がごちゃごちゃになってしまうという問題もあるので、皆さんのご経験の中から、良い悪いという評価も含め、例えば、次回、各委員から提供されるというのもよいと思う。

(事務局) それでは、4ページについては、メリット、デメリットもまとめ、資料に追記したいと思う。

(委員) 2点ほどある。まず、2ページの収集保存部門の構成のところ、美術館に約500㎡、施設外の市内に約500㎡となっているが、仮に、川口駅周辺に新たな美術館が建った場合、どの辺りに500㎡の収蔵庫を用意しようと考えているのか、腹案があれば教えていただきたい。

2点目は、多目的ホールについて、本日の説明では、フレンジアとほぼ同じ約500㎡とのこと。フレンジアで商工会議所の賀詞交換会などを立食形式でやってるが、非常に窮屈な感じがする。今後の企業誘致なども考えると、500㎡規模のホールは既にあるのだから、新たに作るのであれば、もう少し広くてもよいと思う。なぜ、フレンジアと同じ規模なのか、プラス200とか300とかは想定していないのか、その理由を教えてください。

(事務局) まず1点目、収蔵庫を施設外のどこに用意するかということについての腹案はない。例えば、鳩ヶ谷庁舎や浄水施設等で使用可能な空きスペースはないか等、色々と検討しているが、ここというところはまだ見つかっていない状況である。

現状を話すと、寄贈作品については、既に適切な場所での保管管理ができていく状況である。さらに近々、100点近くご寄贈いただける話があり、これらの作品の行き先も概ね目星がついている。

基本的には、美術施設内収蔵庫に全部収める予定だが、さらに寄贈品が増える可能性があるとのことご指摘をいただいたことから、じっくりと腰を据えて、適切な場所を選んでいきたいと考えている。

(委員) 了解した。

(委員) 前回から、「多目的ホール」というネーミングが気になっている。企画展示等を行う際に、制度上制約が生じないかという懸念なのだが、例えば、大きい方を「展示室1」、多目的ホールを「展示室2」

としておき、あくまで展示のためのスペースであり、その上で、コンベンションやパーティー、展示していないときは市民に開放するとか、そういう位置づけにする方が誤解が生じず、使用の際の制約も受けないのではないかと考える。

(事務局) 「多目的ホール」といっても、基本的には大きな展示室であり、展示のない場合等に様々な用途に使用できるものとして、事務局としても捉えていたことから、ご指摘を踏まえ、再検討させていただきたい。

(会長) 参考資料に各地の多目的ホールの大きさが記載されているが、これ以上大きいものも結構あるのか。

(事務局) 想定面積を500㎡としたことから、300から700㎡の面積のホールを記載させていただいた。大きいホールはたくさんあるが、面積が違いすぎると比較にならないことから、除外している。

(委員) 帝国ホテルの光の間が記載されているが、孔雀の間の東西をつなげると何㎡かわかるか。

(事務局) 次回までに調べておく。

(委員) そごうが撤退するが、ワンフロアは何㎡あるのか。

(事務局) 概ね1000坪、3000㎡強である。

(委員) 市は持っていないのか。

(事務局) 持っていない。

(委員) 川口駅西口に音楽の拠点、東口に美術という風なイメージで。外から見た街のイメージを変えるには、もう、商店とかそういうのでは難しいだろう。日本橋あたりの再開発とか、縦の街づくりというのも考えに入れて進めていただきたいと思いますと思う。

(委員) そごうの跡地ということも、考えの中に入っているという意味か。

(事務局) ただ、実際、そごうがいくらするかを考えると、数百億円のオーダーになってくる。床を購入して美術館を建てるとなると、天井高も相当低いことから改修等が必要であり、かかる費用が現実的な金額でないことから、今回のケースからは除外させていただいた。

(委員) 参考資料の各美術館の記載内容をみると、高崎シティギャラリーの来場者数が非常に多い。なぜ、これほど成功しているのか。

(アドバイザー) 高崎市は、駅前のデパートの中に施設があり、そこから少し歩いたところにも施設がある。ちょうど、川口の美術館がそごうの中にできたとして、アトリアと連携するというような、複数の施設を上手に分けて連携して運営しているということになると思う。

(委員) 先ほど照明の話があったが、どうして美術館はあんなに暗いのだろうと、いつも感じている。先日、遠山記念館で平安時代の書の展示があったが、真っ暗で見えない。さいたま市立美術館の北斎の漫画展も暗かった。作品のために、これ以上明るくしてはいけないという基準があるかどうか、理由はわからないが、ぜひ、最も作品を見やすい照明を考えていただきたい。コストも考慮しつつ、よい照明と空調の工夫をお願いしたい。しかし、どうして日本の美術館は暗いのだろう。

(委員) 紙が灼けるから、酸化してしまうから、古い紙の場合はあまり明るくできないという事情がある。絵画でも版画でも、例えば浮世絵などでも、強い照明で灼けてしまう。

(アドバイザー) 遠山記念館は、施設自体が古いということもある。

(委員) 言葉尻の問題でもあるが、2ページの収蔵設備の説明で、「火災や地震に対する安全性」とあるが、念のため、ここに風水害、浸水のことも入れた方がよいと思う。川崎市民ミュージアムの場合、車寄せが地下に入っていく構造から、道路からの水が施設に集まり、収蔵庫が全部水没してしまった。今回はそういう場所ではないと思うが、一応記載しておいた方がよいと思う。

(事務局) 承知した。

(会長) 議題(2)の基本構想実現のために必要な建物の仕様、規模に関し一部いただいたご意見について、次回、追記するということとしたい。続いて、議題(3)の建設費低減に向けての建設案について、ご意見等はあるか。

(委員) 8ページ、PFI手法を紹介されていることについては、大変結構だと思う。最たる例が豊島区役所で、財政難の中、ゼロ円で区役所を作ったというものである。ただ、相手があってこそそのPFIであり、相手方にメリットがなければ絶対に成り立たない。私が区長をしていた当時は、港区も財政難で、福祉施設、特別養護老人ホーム、障害者施設、区営住宅等、大型事業はほとんどPFIで実施したが、これらは相手に乗ってこられるプロジェクトであることが大前提。初期投資がいらないという意味において、よい方法だと思う。

先ほどもご発言があったが、例えば豊島区役所の事例とか、具体例の記載があってもよいと思う。

次に、9ページの建設案のパターン分けだが、どういう方法が市にとって負担が少ないかを検討する上で、適切な内容であると思う。ただ、気をつけたいのは、例えば、Aの建設費概算合計額の下の平米単価をみると、ものすごく高額である。一般的な公共施設では、

天井高3m、階高4mだが、美術館の場合はその二層分、天井高6～7m、階高8mとかになる。だから、単純に単価で割り戻すと、美術館には倍の建設費が必要になるわけで、そのことを明記しておかないと、とんでもない値段だという、誤解が生じる恐れがあると思う。

最後にもう一点。先ほど、環境に優しい、CO₂削減ということがあったが、例えば、断熱材を厚くするとか、地中熱を利用するとか、太陽光発電を使うとか、二重ガラスにすることなどを行うと、イニシャルコストが1割ぐらい高くなる。しかし、ランニングで見ると、CO₂の排出量が1/3になる、半減する、電気代が安くなるということで、結果的に、50年間のトータルでは安くなる。そういうことも、但し書きでどこかに載せていただくとよいと思う。おそらく、いずれ建設費が具体的に出てくると、普通の学校建設費の倍じゃないかというような意見も寄せられると思うので、美術館という特殊性を少し記載した方がよいと考える。

(委員) 今のご意見に加えて、一つ伺いたい。工事項目に、「電気・衛生・空調工事」と一括で記載があるが、美術館の場合、いわゆる建築設備とは別に、美術展示のための特有の設備が必要で、何と呼称するかは別として、多目的ホールの設備に要する費用も大きくなる。例えば、川崎市アートセンターなどでは、建築設備、建築費の3割ぐらいがスタジオの設備費となっており、予算要求が議会を通らず、全部リースにした経験がある。ここで明確にするかどうかは別として、そのことを心しておく必要がある。先ほど話のあった、色々な展示に対応できるよう、アジャストするためには、建物のインフラコストがかかる。それを加味しておかないと、さらに費用が増える可能性があり、逆に、加味しておくことで、ランニングの効率が上がるということにもなってくるため、整理をしておくべきだと思う。

(事務局) 説明に不足があったが、資料の概算金額については、京都市の美術館再生整備計画で出された平米単価等を参考に、同等のグレードの施設と仮定し、試算したものである。従って、より環境負荷を低減する設備が必要となると、これより金額は上がり、一般的なもの、同程度でよいということであれば、概算費用としてはこの程度となると思う。ご指摘を踏まえ、単価については再度検討するとともに、ランニングコストの件、自然エネルギーを活用した際のランニングコスト低減についての内容も記載するよう検討したいと思う。

(会長) この概算金額には、どの程度まで入っているのか。躯体にかかる費用までか。この辺がよくわからない。

(事務局) 展示ができる状態までの費用として試算した。ただし、ここには展示室のスポット照明や作品を吊るワイヤー等の備品類は一切入っ

ていない。壁紙が貼ってあって、作品を照らす照明ではなく、廊下や部屋を明るくするための照明設備が付き、空調設備が付いているというような状態を想定している。この概算金額の上に、スポット照明や備品類等の費用が乗っかってくるということである。

(会長) 美術館に関わる専門的な立場から、何かご意見はあるか。

(委員) 全体の工事費からみれば、スポット照明やスポット照明のためのレールなどの設備費は、さほど大きなものにはならないと思う。

(委員) ご意見はわかる。しかし、先ほど話したアートセンターの場合、パフォーマンスができるスタジオ機能としての音響、映像関係の設備が多く、それが建築コストの3割近くになったことがある。

絵画の照明一つとっても、それぞれの作品に合わせて、微妙に調整しなければならない。彫刻の場合は、立体物が入ると照明がまったく変わってしまうため、床下からとらなければならないものなど、方法も変わってくる。建物の準備としてやっておくべきことがたくさんあるし、配線もあればよいというものではなく、全部コントロール可能かいうところも含め、工事費も手間もかかるため、確かに、10億以上の工事費の半分もかかるということではないかも知れないが、下手をすると1桁の億単位の費用がかかることもあり得る。そう考えると、ここに記載されている工事費について、ある程度の定義をしておく必要がある。ここまでは考えていますよ、これは後からでは手をつけられない設備工事ですよとしておき、他は「不明」として項目を挙げておく必要があるかも知れない。

(事務局) ご指摘いただいた点については、検討させていただきたい。基本的には、一般的な建築工事等で示す内容を記載しており、また、美術館を建てることから、調光等の仕様に関しても、資料記載の概算金額の中に入っているものと考えている。ただ、先ほど申し上げた通り、照明灯の数やレール、そういった備品類については、ここに入っていない状況であり、それらに関しては、部屋の形状や長さ、天井の高さなどによって変わってくる。従って、ある程度、敷地が絞られ、建物の設計を行う段においては、再度詳細に検討させていただきたいと考えている。

(委員) この段階で工事費を出されたことについては、非常に勇気ある行動だとは思う。しかしながら、まだ、基本構想・基本計画の段階であり、躯体工事がいくら、仕上工事がいくらという数字だけが一人歩きし、非常に危険であり、議論がこの一点に集中してしまう。今の段階では、約何十億といった丸めた表現とした方が問題が少なく、議論も前に進んでいくのではないかと思う。

(事務局) ご意見ありがとうございます。資料については、丸めた表現に修正させていただきたいと思う。

(委員) 3つの建設案についてはわかったが、実際に、どこにどういう風に作るのか、次は具体的に示していただきたい。例えば、この中学校が廃校になった後には建設できるが、遠くなるから難しいとか、この場所は何年先なら可能性があるが、収蔵庫が少なくなるとか、腹案があれば出していただかないと、判断ができない。

(会長) 土地を買って建てるのか、それとも、市の所有する土地に建てるのか、或いは、最も可能性があるとした再開発で建てるのか。これについては、審議会として意見をまとめ、方向性を決めていかなければならない。実際の場所や状況も含め、再開発がいつできるかわからないが、できるだけコストを低く抑える案として、これをベースに検討を進め、答申としてまとめていくのかと思う。それとも、よい施設を建てるためには、土地を購入したほうがよいとするのか。それは、この審議会の中で決めていかなければならない。

(事務局) 今、ご指摘いただいた件について、基本的に、どれが腹案ということはない。どの案がよいかということについては、ご議論によるところだが、ご議論いただく中で、現実的なもの、そうでないものというところについては、例えば、新たにまとまった面積の用地買収をして建設するというA案については、現実的ではないと考えている。それでも、買収をかけて土地を取得するという審議結果となれば、事務局としてはその方向で検討したいと思う。

(委員) 川口市民ではないのでよくわからないが、市役所の建て替えに併せて一緒に美術館を作る、美術館のある市役所とか、そういうコンセプトはないのか。

(事務局) 都市計画法上建てられるボリュームがある程度決まっており、現在、新庁舎一期棟の工事を行っている。その後、今の本庁舎を解体して二期棟を建設し、2つの新庁舎が揃って完成という予定である。二期棟のボリュームを増やすことについては、都市計画法、建築基準法上、容積率、高さの面で難しいと思う。

(委員) NHKの跡地はどうか。

(事務局) S K I Pシティは行政施設ということで、何か別に計画があるようだ。

(委員) 新宿区では、地区計画で15mの高さ制限だったものを国立競技場を建てるために60mに上げている。要するに、国策として都市計画を変更したということ。極論すれば、市長の判断で容積率を増

やすことも、高さ制限撤廃も、日影の問題等はあるかもしれないが、やろうと思えば出来ただろうと思う。ただ、既に手続きが終わったものをひっくり返すのは大変なことであり、これが3年ぐらい前の議論だったら可能だったかもしれないという話である。

(委員) やはり、人が来やすい場所でないと、せっかく良い施設を作ったとしても、もったいない。

(委員) 9ページの比較資料だが、今後、審議会として残す資料とするのであれば、皆さん同じ考えだと思うが、A案は99%あり得ないということで除外して、BとCのみの比較に絞る。それに、皆さんからご意見をいただいたメリット、デメリットを箇条書きにして、工事費用は記載せず、例えば、C案はB案より工事費が2割程度安くなりそうだとか、そういう表現でまとめたらどうかと思う。

(委員) 委員から話があったが、利便性といえば、やはり駅前である。川口駅、西川口駅、東川口駅等々あるが、隅々まで川口を見てきた立場から言えば、市内の土地で可能性のある場所としたら、川口駅東口の線路脇の駐車場になっている土地か、URが使っている団地が解体されて川口に戻ってくる土地、ある程度大きな駅前の土地といえ、この2カ所しかないのではないかと思う。市内でも、交通の不便なところには土地はあると思うが、先ほどのご意見の通り、人に来てもらえなければ意味がない。

SKIPシティというご意見もあったが、NHKが50%、県が25%、川口市名義の分は25%しかない。よその名義の土地であり、別の計画がある場所なので、今さら、SKIPシティという案はあり得ない。

駅前に作るのであれば、線路脇の駐車場か、URの団地かの二つに一つの選択になると思う。新たに土地取得については、今、川口は大きな事業を抱えているので、議会を通すのが大変だろう。

消去法でいくとBかC、そのどちらかで、メリット、デメリットを整理した資料を次回までに作っていただくと議論がしやすくなると思う。

(事務局) ご意見を踏まえ、B案とC案に絞らせていただき、それぞれのメリット、デメリットを再度検討して資料にまとめるので、次回、ご議論いただければと思う。

(アドバイザー) BとCの比較の際には、例えば、再開発事業が20年後に完了するとしたら、今、検討している美術館の資料も意味がなくなるので、Bなら何年後、Cなら何年後という期間も加えていただけれ

ば、比較検討しやすいと思う。

(事務局) 再開発事業では、事業組合がいて、地権者がいて、それぞれの同意をいただいてからという進め方になるため、それを数値化することは難しい。例えば、同意をいただいてからの手続きの順番とかスピードとか、そういったものであれば、組み立てることは可能なので、Cについてはそのような形で記載させていただき、Bについては、期間はそれほど重要では無いと思われることから、簡単に記載させていただきたいと思う。

(委員) このCの図は、再開発を前提に書かれたものだと思うが、美術施設が建物本体から独立したように見える。これは一つのイメージであり、事業の進め方により、ビルの中にインクルードされる形になるかも知れない。そういう違いにより、得られる空間の自由度なども変わってくるため、今後、議論を具体化するのであれば、独立したものと、ビルの中にテナントのように入っているものとを分けて議論しないとわからないのではないかと思う。この審議会としても、どちらが望ましいということをお答えとして出していくのがよいと考える。

(事務局) それについては、次回の段階で検討させていただいた方がよいのか、それとも、再開発の方向となってから検討すればよいのか、お教えいただければと思う。

(委員) ビルの中に作る場合には、階高や空調など、色々と難しい問題が考えられる。この図のように、独立した施設であれば、空調も車の動線も分けて考えられるというメリットが考えられる。そういうメリット、デメリットは、一度整理したほうがよい。

(事務局) それは、次回説明したほうがよろしいのか。

(会長) 詳細なものでなくとも、概要を次回入れていただければと思う。

(委員) 今の話の関連で言うと、八王子美術館は再開発ビルの低層階に入っている。最上階では、六本木ヒルズの森美術館がある。同じ再開発でも、八王子タイプと六本木タイプ、それから、こうした独立タイプがある。それぞれ、こうした簡単な事例を入れながら、メリット、デメリットを記載したらよいのではないか。

(事務局) 次回までに整理し、資料とさせていただきたいと思う。

(委員) PFIの事業方式の中で、BTO、BOT、BOOとあるが、わかれば、豊島区役所の例も含め、他の施設がどうなっているか調べていただければと思う。

(事務局) 承知した。

(会長) 他になければ、議題(2)及び(3)については、本日の議論を踏まえ、次回、お示しいただくということによろしいか。

(一同) 異議なし。

議題(4) その他

【提供資料に関する委員説明】

(委員) 今回、延床面積は4,000㎡となったが、前回は3,300㎡だったことから、トータルの面積が3,200㎡である川越市立美術館の資料を参考として提供させていただいた。

私ども中札内美術村には、川越市の名誉市民であった相原求一朗画伯の美術館があるが、川越市が美術館を作る際に、相原求一朗記念室を設けるということで関わった経緯がある。

この資料について、1点だけコメントしたい。この中に各施設の面積が記載されており、先ほどの面積の比較表でも、川越市立美術館の展示室の合計が1,000㎡と書かれていた。しかし、このトータルで1,000㎡というところが曲者で、面積表の「地下1階」の部分に、常設展示室292.38㎡、企画展示室468.52㎡とある。美術館オープン以来、学芸員が最も苦勞しているのが、この企画展示室である。468㎡と非常に狭いため、今年開催の巡回展も、2期に分けて展示した。

今回、事務局から提示された展示室の面積は750から800㎡であり、ワンルームで使用する場合には十分な面積がとれるのではないかと、比較する意味で、この資料が参考になるかと思う。また、機会があれば、川越の美術館に行かれ、実際にスケール感を感じていただければと思う。

余談だが、この美術館は低い土地に建っているため、収蔵庫が2階にある。今回の台風で、地下の収蔵庫が浸水したところもある。

これからの審議の参考までに紹介させていただいた。

4 閉会